白皇学院侵略作戦

疾風のごとく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
白皇学院侵略作戦

【Ｎコード】
Ｎ９２９７Ｄ

【作者名】
疾風のごとく

【あらすじ】
ケロロ小隊が考えた白皇学院侵略作戦それをハヤテ達が阻止することができるのか。そしてケロボール・改とは一体なんなのか？

作戦準備

ここは奥東京市日向家・・・の地下である。

「ゲーロゲロゲロゲロ今回の作戦はうまくいきそうでありますな」

またなにか新しい作戦が行われるようだ、そして彼は何を隠そうガマ星雲第５８番惑星宇宙侵攻軍特殊先行工作部隊隊長ケロロ軍曹である

「ほうお前にしてはめずらしいな」

彼はケロロ小隊一地球侵略を考えているギロロ伍長である

「軍曹さん凄いですぅ」

そして彼は見た目はかわいいが極度の二重人格のタママ二等兵だ

「この作戦が成功すれば侵略費用の問題は解決するぜぇ」

そんでもって彼は陰気な性格だが発明品は天才的なクルル総長だ

「ってゆーか資金調達」

そして彼女はアンゴル族で推定２０００歳のアンゴル・モアである

「よーし総員準備せよ」

「了解」

場所は変わって白皇学院ＨＲが終わり１時間目が始まるところだった

「はぁ」

ハヤテは一人溜め息ついていた

「どうしたのハヤ太君、もしかしてまたナギちゃん学校サボったの？」

「その、もしかしてですよ。はぁ」

そしてまた溜め息した

（どうしてお嬢様は学校に来ないんだろう？）

考えているうちにい1時間目が始まった

「はい、始めるまえに転校生が一人来ます」
その瞬間教室がざわめきだした

「先生男ですかそれとも女ですか？」

「女よ」

男は喜び女はがっかりした

「入っていいわよ」

ガラガラガラピシャ

「じゃあ自己紹介から始めて」

「はい私は北村早織といいますよろしくね」

その子はハヤテより少し背が低いぐらいで髪は赤くてショートヘアで少し目がつりあがっている今時珍しい子だ

「えーと席は、綾崎君の隣ね」

「はい」

「よろしくね綾崎君？」
「あっ、よろしく」

そして昼休みなった

「綾崎君一緒にご飯食べませんか？」

「いいですよ」

そしてハヤテと北村は食堂に向かっていた。そしてその二人をつける三人の影があった

「着きましたよ北村さん」

「それではなにか買ってきますのでまってください」

「はい」

待つこと数分

「はいどうぞ」

ハヤテに渡されたのはメロンパンやあんパンなど甘いものばかりを渡された

「これはいくらなんでも偏りすぎですドォーーーン

ハヤテが言い終わる寸前どこかで爆発するようなおとがした

「なんだ？」

ハヤテが驚いているとき

「まさかもうここを嗅ぎ付けたの？」

逃げようとした瞬間目の前に緑色のなにかが現れた

「ゲーロゲロゲロゲロやっと見つけたであります。さあもうあきらめるであります」

「そうですぅ」

「早くそのケロボール・改をかえすんだ」

そこにハヤテがやってきて

「3対1なんて卑怯ですよ」

三人？が誰だこいつと思っている隙に北村が逃げ出した

「「「あっ」」」

「くそっ追いかけるぞ」

三匹は北村のことをおいかけはじめた

「なんだったんだろう」

そしてハヤテはさっきの爆発するようなおとがしたところにむかった。そしてそこにあったのは

「なんだよこれは」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9297d/

白皇学院侵略作戦

2010年10月10日02時20分発行